

## 「海がプラごみで心配だ」

環境アドバイザー

関川 忠彦

対象 行田市立星宮小学校 4年（16人）

所要時間



45分1コマ

場所 星宮小学校内 家庭科室2F

実施時期

令和3年11月15日

## 概要

- 1 プラスチックは素晴らしい材料で、その特長がゴミになると問題になる。
- 2 海のプラごみはほとんど陸上発生で、川から大量に海に流れ込んでいる。
- 3 既に日常生活からのマイクロプラスチックが流れ込み、今後も継続する。
- 4 プラごみが増え続けると、海が大変なことになるので削減活動を開始しよう。

プログラムの  
ねらい

- 1 マイクロプラスチックを含むプラゴミが、海では大きな問題になってきていることを、各種情報・図表からその実態と問題を理解し認識する。
- 2 廃プラはプラごみになると川から海に流れ込みやすいので、ごみの扱いに注意するとともに、プラごみ削減をできることから3R活動で推進する。

## プログラムの内容

カラフルな画像を用いて説明と質疑応答の講義

## 1 イン트로（5分）

プラごみで死んだクジラの写真から注目させる。 便利で素晴らしいプラスチックを他の素材と現物見本で比較しながら特長を理解させ、紫外線で劣化した見本を見せて興味を高める。

## 2 本題（35分）

- 2.1 プラスチックは素晴らしい材料でほとんどの物品に使われ、無くてはならないもの。
- 2.2 プラスチックの原料を知り、その特長からたくさんの製品が多方面に使われ生活に役立つ。
- 2.3 しかしプラゴミになると、地上・地中や海・海岸に分解されないでそのまま残る
- 2.4 海のプラごみは、浮かんだり海岸に打ち寄せられたり沈んだりして溜まる一方である。
- 2.5 このペースで海に流出すると、40年後には「海の魚の量＝海のプラごみの量」になる
- 2.5 プラスチックの平均使用寿命は4年と短く、ゴミになりやすいので何とかしなければ。
- 2.6 マイクロプラスチックは直ぐには無くせないなので、一般のプラごみの削減を進めよう。
- 2.7 行田市のプラゴミの対応を知り、3Rなど先ず自分のできることからプラごみの削減をする。

## 3 まとめ（5分）

- 3.1 プラスチックは素晴らしい素材で多方面で使われるが、ゴミになると特に海洋での問題が大きい。
- 3.2 プラスチックは商品平均寿命が短く、化学的に分解しないのでいつまでも残る
- 3.3 その問題は、海洋生物の死傷、美観環境、船舶運航、マイクロプラスチックの食事摂取など。
- 3.4 3Rを推進し自分のできることからプラごみ削減をしよう。

## 受講者の反応

### 1 担任、教頭先生より

- 1.1 子供たちにとってわかり易い説明でした。一部の内容にやや難しい所がある。
- 1.2 子供にとって平易な言葉を使っていた頂き、大変わかり易かった。
- 1.3 社会で学習したプラごみについて、さらに深く学習することができた。
- 1.4 今回の実施で、他のテーマでの環境学習に興味がわき次回考えたい。

### 2 講師の感想

- 2.1 見本や図表・写真とポイントを絞った説明がわかり易かったようで集中して聞いていた。
- 2.2 素晴らしい特長を持つプラスチック。 ゴミになってもいつまでも残るやっかいなものだとわかったようだ。 特に海のプラごみは問題で心配だ、何とかしないと顔つきだった。

## 環境学習の様子（写真）



上は容器の変化の見本

左は劣化した見本



最初に細くなるだけのプラゴミ見本で注目を



「このペットボトルは水に浮きますか？」

環境学習 行田市星宮小学校 2021.11.15

### 海がプラごみで心配だ(第1版)



鼻にストロー  
中央アメリカ・コスタリカ沖

- 1 プラスチックの特長
- 2 海に流れたプラごみ
- 3 マイクロプラスチック
- 4 家庭からのプラごみ
- 5 3R、できる事から
- 6 どうする海のプラごみ

行田環境市民フォーラム  
関川忠彦

講義の表紙